HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	10.ピアサポーターの思い ：(3)ピアサポート室の多様性
Author(s)	西島, 優
Relation	北海道大学ピアサポート活動報告書（平成28年度版）p.62
Issue Date	2017-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65088
Type	report
File Information	10HokudaiPeerSupport_H28-03.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

（3）ピアサポート室の多様性

西島優[1]

私がピアサポーターになって約半年が経過した。今回はこの半年間で特に気になったピアサポート室の「多様性」について述べていこうと思う。半年間ピアサポーターとして活動してきたが、ピアサポート室には様々な多様性が見受けられる。ここでは利用者の多様性・サポーターの多様性・サポーター業務の多様性をそれぞれ扱っていこうと思う。

まずは利用者の多様性について。ピア室を利用する学生は主に１年生であるが将来進む学部学科はさまざまである。それに利用する目的も様々である。食事の場所として、勉強の場所として、友達やサポーターとの談笑の場として。文房具を借りるため、こたつで休憩をとるため、今自分が悩んでいることを相談するため。年度の初めだと教室の場所について聞きに来る学生も多い。

この利用者の多様性に応えることが出来るのは、サポーターの多様性があるからこそと言っても過言ではないだろう。サポーターの学年は２年以上で院生もいる。所属学部も多様であるが、少し文系寄りではある。積極的に利用する学生に声をかける方もいれば、ひっそりとピア室を見守られている方、いつも笑顔でいる方、たまに見せる笑顔が素敵な方、相談を親身になって対応する聞き上手な方、相談に対して意見を出して相談者さんと一緒に問題を解決しようとされる方、会議で独創的なアイディアを出される方もいれば、みんなのアイディアを取りまとめられる方もいる。

多様なサポーターにより生み出される企画やちょっとした心遣いは先輩方の経験を基にしながら新たなものを生み出している。これはピア室の醍醐味と言ってよいだろう。そしてその醍醐味を求めて来られる利用者の方ももちろんいる。例えば、ピアカフェや話す会などの活動型のイベントや七夕の短冊を飾る季節型のイベントがある。また情報発信の手段も複数ある。北海道の地域を写真と簡潔なコメントで紹介する「くるっとほっかいどう」(現在、全国版を作成中)。専門科目を学ぶ学部２、３年生の実際の時間割を集めた冊子の「とらのまき」。「部活・サークル大事典」という新歓期に配られるビラなどを集めた「事典」などがある。気の利いた心遣いとして、こたつの用意に加えて座椅子が最近加わった。また、ブランケットや文房具の貸し出しを室内限定で行っている。その他にピア室にある本の蔵書目録を現在営為作成中である。来年度の代表を決めるために代表選挙を今年度から行ったのも記憶に新しい。

このように利用者・サポーター・企画の３つがうまく融合してピア室は成り立っており、それぞれの多様性がピア室をより魅力的なものにしている。あたかも自然の生態系のように。

---

[1] 北海道大学医学部２年